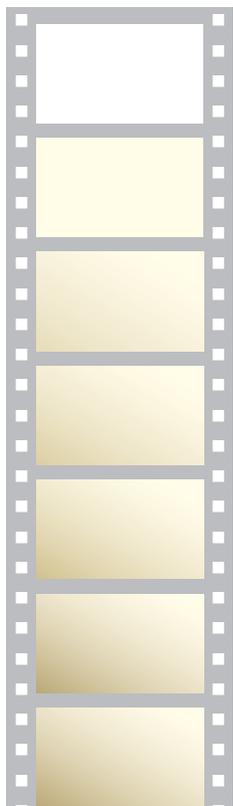
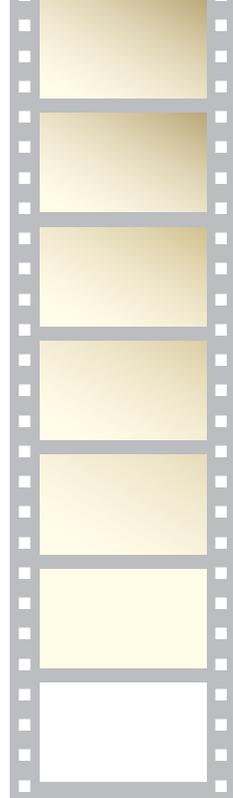


伸^ノさんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第五十一回 「ぼくのテーマミュージック」③

今回と次回、「ぼくの好きなテーマミュージック」のエピソードをご紹介します。初めはマカロニウエスタン（アメリカではスパゲティ・ウエスタンと言います）の世界的ブームの口火を切った「荒野の用心棒」です。

この映画の主題曲「さすらいの口笛」は、関光夫さんの民放DJ番組で初めて聴き、もう一度聴きたいと思っていましたが、急に番組から放送されなくなり、「何かあったのでは？」と気になっていた曲でした。

それに、テレビ西部劇「ローハイド」に出演しているぼくが好きな当時テレビ俳優の一人「クリント・イーストウッド」が初主演をしていると知っていましたから、興味は深まるばかりでした。

ところで、話は西部劇から時代劇に変わりますが、黒澤明監督の娯楽時代劇「用

心棒」(61年製作・日本映画・監督 黒澤明、脚本 黒澤明、菊島隆三、出演 三船敏郎、仲代達矢ほか。音楽 佐藤勝)が日本で封切られたのは、64年、4月25日でした。この映画は黒澤明がプロダクションを作つて2作目の作品で、おもしろい映画を作ろうという気迫が画面から伝わってきました。「用心棒」は大ヒットして、すぐ続篇といえる「椿三十郎」(61年製作・日本映画・監督 黒澤明、脚本 黒澤明、菊島隆三、小国英雄、出演 三船敏郎、仲代達矢ほか。音楽 佐藤勝)が製作されました。

一方、「用心棒」は海外へも輸出されました。イタリアのセルジオ・レオーネ、またの名をボブ・ロバートソンと名のる映画監督は、日本の映画配給会社「東宝」に『用心棒』を西部劇としてリメイク(作り直すこと)したい」と二度手紙を出したが、「返事は来なかった」とあとで語っています。

その後、64年イタリアの首都ローマほか、15都市で17億リラく20億リラの興業収

入を上げる作品があるというニュースを日本の映画配給会社のローマ駐在員が聞き、その映画を観に行きました。「A Fistful of Dollars」(原題 Per un pugno di dollari。直訳すると「^{ヒトニギ}握りのドルのために」、つまり「はした金のために」、邦題「荒野の用心棒」日本公開64年)というタイトルで、ストーリーは黒澤監督の作品「用心棒」と全く同じだったのです。

駐在員は、日本の本社へ連絡するとともに、本社では盗作訴訟の訴えを起こしました。

撮影日数6週間、上映時間1時間39分、アメリカで興業収入420万ドルの収益を上げたこの映画(邦題名「荒野の用心棒」)は、まだ名も知られていないセルジオ・レオーネ監督が、アメリカのテレビ西部劇俳優クリント・イーストウッドを主演にして、マカロニ(スパゲティ)ウエスタンブームを作り上げたのです。

ところで著作権侵害の訴訟では、「荒野の用心棒」を製作したイタリアのプロダク

シヨンが、日本側（東宝）へ15万ドルを支払うこと。また日本の配給権を日本の外国映画配給会社（東宝東和）に与えることで決着しました。

なぜイタリア人がアメリカ人の名前を名づけるならなかったのか？ 考える
と、「西部劇はアメリカ製でなければ『観客が入らない』から」ではないでしょうか？
(195ページの答)

初め、「荒野の用心棒」の音楽担当はモリコーネではありませんでした。しかし、配給会社の勧めもあり、レオーネ監督はモリコーネに会いました。モリコーネはアレンジした「みのりの牧場」という曲を聞かせ、スタッフの賛同を得たのです。口笛とギター演奏担当は「アレックスサンドロ・アレックスサンドロニ」。彼は、ヴォーカルグループ「カントーリ・モデルニ」でタイトルバックのコーラスに参加。口笛とエレキギター、パンフルートとトランペット、そして、コーラスで「さすらいの口笛」を完成させました。これにより「さすらいの口笛」はイタリアの銀リボン賞を

受賞し、「荒野の用心棒のテーマ」とともに、マカロニウエスタンブームを代表する曲になりました。エンニオ・モリコーネ38歳の栄光の時でした。

ところで、イーストウッドは「ピアノは独学で覚えた」と言っていますが、口笛は吹けるのでしょうか？

(続)

(文中敬称略)

伸

平成24年10月